

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

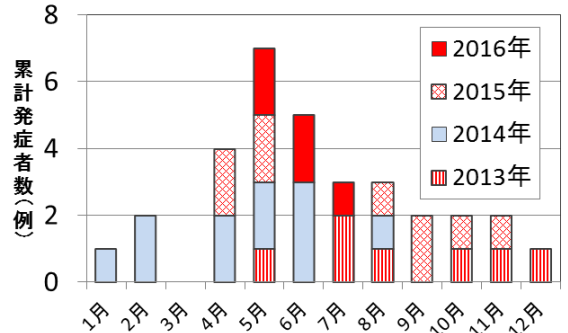
## 宮崎県第27週の発生動向

### トピックス

・**重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)** (全数報告の感染症) の報告が宮崎市保健所から1例あった。県内での報告は今年5例目で、累計32例(平成25年3月届出開始以降)となった。患者は70歳代女性で、発症は7月上旬であった。ダニの刺し口は確認できず、海外渡航歴はなかった。県内のSFTS年齢別報告数(届出開始以降)

30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	9	9	9	1

県内のSFTS月別発症者数(届出開始以降)



### 全数報告の感染症 (27週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核2例。3類感染症：報告なし。
- 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群1例、日本紅斑熱1例。5類感染症：報告なし。

疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類 結核	都城	70歳代	男	肺結核	咳、痰
	延岡	80歳代	女	肺結核	発熱
4類 重症熱性血小板減少症候群	宮崎市	70歳代	女	-	発熱、下痢、嘔吐、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、両下肢に小皮疹多数
4類 日本紅斑熱	日南	60歳代	男	-	発熱、刺し口、発疹

### 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は799人(定点当たり26.4)で、前週比107%とやや増加した。前週に比べ増加した主な疾患はRSウイルス感染症とヘルパンギーナ、流行性角結膜炎で、減少した主な疾患は感染性胃腸炎と流行性耳下腺炎であった。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【ヘルパンギーナ】

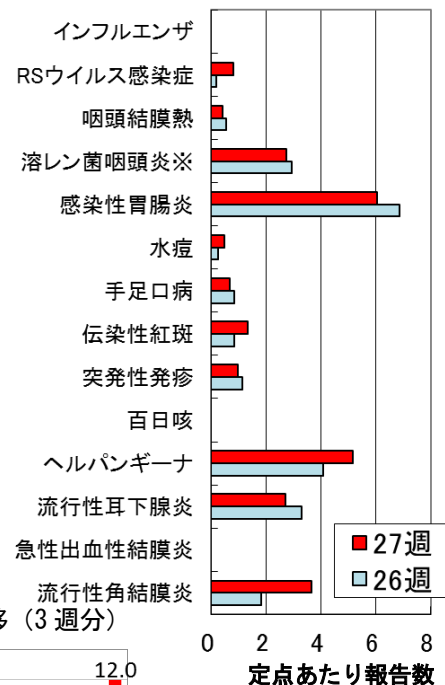
・報告数は186人(5.2)で、前週比127%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(6.3)の約0.8倍であった。日南(12.3)、中央(12.0)、延岡(6.5)保健所からの報告が多く、年齢別では2歳以下が全体の約8割を占めた。

##### 【流行性耳下腺炎】

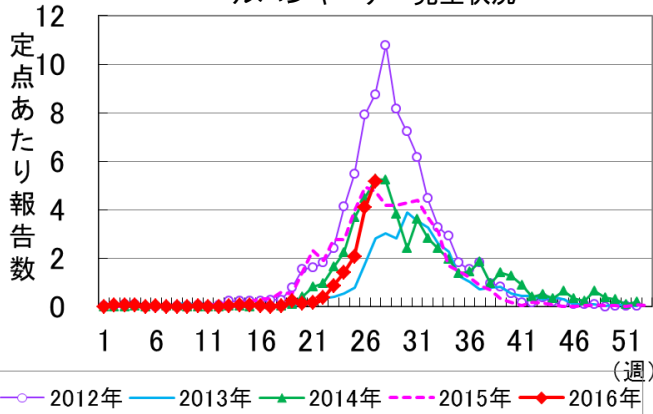
・報告数は97人(2.7)で、前週比82%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.79)の約3.4倍であった。日向(7.8)、小林(6.0)、延岡(5.8)保健所からの報告が多く、年齢別では4~6歳が全体の約4割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

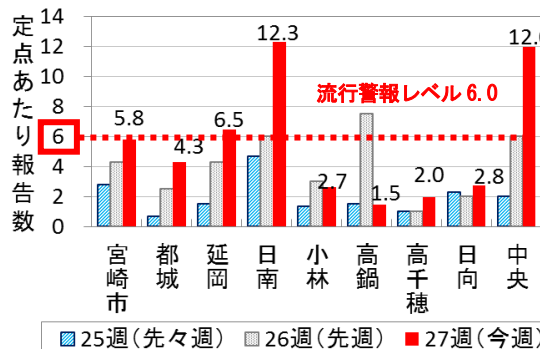
【前週との比較】



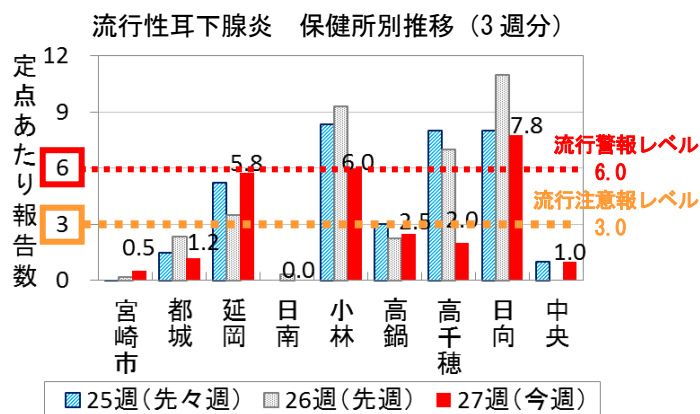
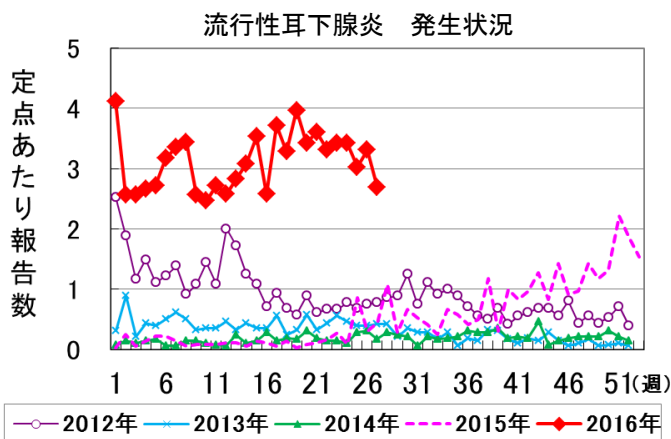
ヘルパンギーナ 発生状況



ヘルパンギーナ 保健所別推移 (3週分)



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



★基幹定点からの報告★

- 無菌性髄膜炎：都城保健所から報告があった。0～4歳であった。
- マイコプラズマ肺炎：宮崎市(7例)、高鍋、日向(各1例)保健所から報告があった。0～4歳が4例、5～9歳が2例、10歳代が3例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	ヘルパンギーナ(6.5)、流行性耳下腺炎(5.8)
日南	ヘルパンギーナ(12.3)
小林	伝染性紅斑(5.0)、流行性耳下腺炎(6.0)
高鍋	伝染性紅斑(2.3)
高千穂	なし
日向	流行性耳下腺炎(7.8)
中央	ヘルパンギーナ(12.0)

＊流行警報レベル開始基準値＊

- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・ヘルパンギーナ(6.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

＊流行注意報レベル基準値＊

- ・流行性耳下腺炎(3.0)

🇯🇵 全国 2016 年第 26 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 26 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	414 例				
3類感染症	細菌性赤痢	4 例	腸管出血性大腸菌感染症	118 例	腸チフス	3 例
	E型肝炎	3 例	A型肝炎	5 例	エキノкокクス症	1 例
4類感染症	重症熱性血小板減少症候群	4 例	つつが虫病	2 例	デング熱	8 例
	日本紅斑熱	3 例	マラリア	1 例	レジオネラ症	32 例
	アメーバ赤痢	14 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	21 例	急性脳炎	8 例
5類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	4 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7 例	後天性免疫不全症候群	14 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例	侵襲性肺炎球菌感染症	12 例	水痘(入院例)	3 例
	梅毒	62 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例	風しん	3 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 101%とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナであった。減少した主な疾患は感染性胃腸炎と流行性耳下腺炎であった。

流行性耳下腺炎の報告数は 3,357 人(1.1)で前週比 94%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.56)の約 2.0 倍であった。宮崎県(3.3)、新潟県(2.1)、熊本県、山形県(2.0)からの報告が多く、年齢別では 4～5 歳が全体の約 3 割を占めた。 \* 過去 5 年間の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

## 月報告対象疾患の発生動向 <2016年6月>

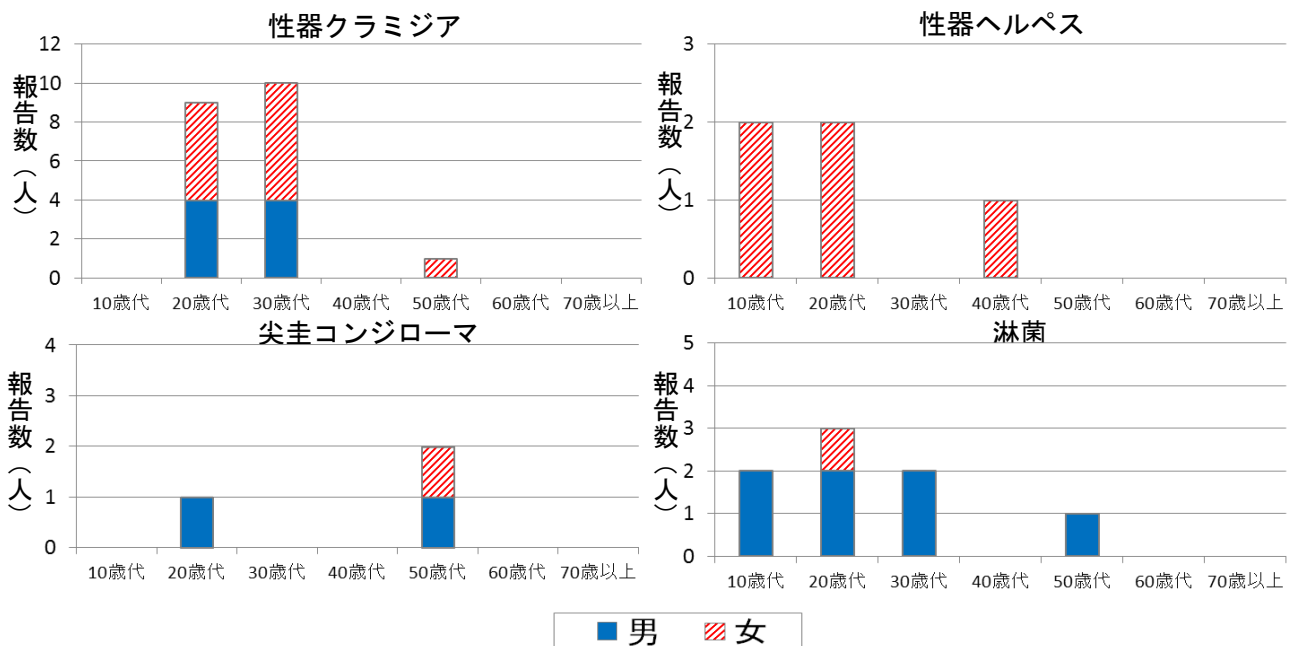
### □性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は36人(2.8)で、前月(2.7)の約1.0倍、昨年6月(2.6)の約1.1倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数20人(1.5)で、前月(1.6)の約1.0倍、昨年6月(1.8)の約0.9倍であった。30歳代が全体の半数を占めた。(男性8人・女性12人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数5人(0.38)で、前月(0.31)の約1.3倍、昨年6月(0.23)の約1.7倍であった。(女性5人)
- 尖圭コンジローマ：報告数3人(0.23)で、前月(0.38)の0.6倍であった。昨年6月(0.23)の1.0倍であった。(男性2人・女性1人)
- 淋菌感染症：報告数8人(0.62)で、前月(0.38)の1.6倍、昨年6月(0.38)の約1.6倍であった。(男性7人・女性1人)



【全国】 定点医療機関総数：982

定点医療機関からの報告総数は4,070人(4.1)で、前月比で105%と増加した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,138人(2.2)で前月比110%、性器ヘルペスウイルス感染症804人(0.82)で前月比107%、尖圭コンジローマ476人(0.48)で前月比87%、淋菌感染症652人(0.66)で前月比100%であった。

### □薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は24人(3.4)で前月比96%とほぼ横ばいであった。また昨年6月(2.6)の約1.3倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数24人(3.4)で、前月の約1.0倍、昨年6月(2.4)の約1.4倍であった。70歳以上が全体の約半数を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：475

定点医療機関からの報告総数は1,466人(3.1)で、前月比99%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,285人(2.7)で前月比98%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症169人(0.36)で前月比103%、薬剤耐性緑膿菌感染症12人(0.03)で前月比150%であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第27週(7月4日～7月10日)

疾病名		第26週	第27週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	6	29	13	7				9			
	定点あたり	0.17	0.81	1.30	1.17	0.00	0.00	0.00	2.25	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	20	15	1	1	2	2	7				2
	定点あたり	0.56	0.42	0.10	0.17	0.50	0.67	2.33	0.00	0.00	0.00	2.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	105	99	31	16	10	20	2	17		3	
	定点あたり	2.92	2.75	3.10	2.67	2.50	6.67	0.67	4.25	0.00	0.75	0.00
感染性胃腸炎	報告数	247	217	43	35	9	33	41	15	7	20	14
	定点あたり	6.86	6.03	4.30	5.83	2.25	11.00	13.67	3.75	7.00	5.00	14.00
水痘	報告数	9	17	6	2	8			1			
	定点あたり	0.25	0.47	0.60	0.33	2.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	30	24	3	2		13				6	
	定点あたり	0.83	0.67	0.30	0.33	0.00	4.33	0.00	0.00	0.00	1.50	0.00
伝染性紅斑	報告数	30	48	13	6	1	1	15	9		3	
	定点あたり	0.83	1.33	1.30	1.00	0.25	0.33	5.00	2.25	0.00	0.75	0.00
突発性発しん	報告数	41	35	7	9	3	2	7	1		5	1
	定点あたり	1.14	0.97	0.70	1.50	0.75	0.67	2.33	0.25	0.00	1.25	1.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	147	186	58	26	26	37	8	6	2	11	12
	定点あたり	4.08	5.17	5.80	4.33	6.50	12.33	2.67	1.50	2.00	2.75	12.00
流行性耳下腺炎	報告数	119	97	5	7	23		18	10	2	31	1
	定点あたり	3.31	2.69	0.50	1.17	5.75	0.00	6.00	2.50	2.00	7.75	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	11	22	18	3	1						
	定点あたり	1.83	3.67	6.00	1.50	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	13	9	7					1		1	
	定点あたり	1.86	1.29	7.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00		1.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～27週)

2類感染症	結核	110例(2)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7例				
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	5例(1)
	つつが虫病	5例	日本紅斑熱	3例(1)	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	11例	ウイルス性肝炎	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2例
	急性脳炎	8例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	2例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	4例
	梅毒	5例	播種性クリプトコックス症	3例	破傷風	1例

( )内は今週届出分、再掲